

1. 本園の教育目標

- 設立母体であるカトリック守護の天使の姉妹修道会の教育方針に沿って、園と家庭が一体となって、あたたかい宗教的雰囲気の中で幼児の基本的な生活習慣を身に付け、望ましい人間形成の基礎づくりを目指す。
- 教育理念の基本である『素直な心』『思いやりの心』『頑張る心』を大切にして、神様が私たちを愛してくださっていることを知り、日々の保育を通して、『祈る心』『感謝の心』を育てる。
- 幼稚園生活を楽しみ、充実感を味わいながら様々な活動に自分から進んで取り組み、将来どんな試練にも立ち向かい乗り越えていく「生きる力」を養う。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- ① 指導計画の見直し
- ② 教育の質の向上
- ③ 健康・安全管理
- ④ 未就園児クラス・子育て支援の充実
- ⑤ 開かれた園作り

3. 評価項目の達成および取り組み状況

【評価の基準】

A 十分達成されている B 達成されている C 取り組まれているが、成果が十分でない D 取り組みが不十分である

課題	取組状況	具体的な取り組み
① 指導計画の見直し	C	園長をはじめ全教職員が、自園における教育課程の再編成に参考になるように、様々な研修会に参加することができた。しかし、結果として、様々な研修への参加は取り組めたが、教育課程の再編成の完成までは至っていない為、今後も継続して取り組んでいく。
	A	リーダー・学年主任を中心に、子ども達が主体的に活動できる保育内容を計画し、その日々の活動を振り返り、子どもの実態に即した内容に見直してきた。結果として、教職員が子ども理解を深めることができた。
	A	毎学期ごとに各クラスで保育を振り返り、成果と課題をまとめ、次の学期にねらいを持って取り組めるように指導計画の見直しを行う。結果として、子どもの実際の姿を踏まえた保育内容となった。
	B	全教職員が幼稚園育要領の5領域や幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿(10の姿)を理解して、生きる力の基礎を育てることを意識した指導計画を立てることができた。
	C	本園の教育理念の基本でもある、心の教育をさらに深められるように、毎日の園生活の中でのあらゆる場面で子どもたちに伝えていく。取り組みの結果として、あらゆる場面で子どもたちに伝えてきたが、十分ではなかった。今後は、子ども達がかっと理解できるようにするためには、まずは、教職員から理解していくことが大切であるため、教職員の学びを深めていく。
	B	遊びの中で十分に体を動かす活動を取り入れ、楽しみながらも幼児期に必要な体力・運動能力の基礎を培ってきた。結果として、今後も引き続き、日々の保育の中で、運動遊びを取り入れながら、体作りに取り組み、運動能力の基礎を身につけていきたい。

② 教員の資質の向上	B	学期ごとに全教職員が園内研修に参加し、一人ひとりがカトリックさゆり幼稚園の教職員としての役割に気づき、資質向上に努めることができた。
	A	外部講師による園内研修の実施し、専門性の向上をはかる。結果として、特別支援、音楽の専門の講師による研修を行うことができた。
	B	園外の研修にも積極的に参加し、学んだことを園内で共有していく。結果として、様々な種類の研修に参加することができ、保育に活かすことができた。今後はその内容を教職員で共有できるようにしていきたい。
	B	学年主任やリーダーを中心に縦・横の連携を大切に、教職員が自由に意見交換のできる環境づくりに取り組むことができた。今後も継続して、全体での意見交換が活発に行える環境作りを目指す。
	C	保育後の業務に関しての時間の使い方の見直し、園のICT化を進め、教職員の労働時間を各々が守る意識を持ち、有効な時間の使い方を身につけていく。取り組みの結果として、時間の意識は少しずつ持てるようになってきたが、実際の業務量に対しての時間の使い方に課題が残る結果となった為、引き続き取り組みが必要である。
③ 健康・安全管理	A	子どもの命を守る教育(火災・地震・交通安全・流行性の病気)の充実を図り、安全意識を高めていく。結果として、計画通り行うことができた。
	A	園生活の中で、流行性の感染症(新型コロナウイルス感染症・インフルエンザなど)や安全面・衛生面に考慮した指導を教職員全体で共通理解しながら取り組む。結果として、1年を通して、しっかりと意識しながら保育を行うことができた。
	A	安全対策・危機管理に努めながら子どもの動線や環境を整え、園児自身が意識して行動できるように援助する。結果として、3学期には、予告なしの訓練を行い、子どもたち自身が考えて行動できるように練習を積み重ねることができた。
	A	エヒペン講習会の実施・アレルギー対応の知識向上と共通理解に努める。予定通り実施できた。
	D	危機管理マニュアルを見直し、全教職員が子どもの安全な園生活のために、あらゆる危機に対応できるように、危機管理マニュアルを改訂し、研修を行う。結果として、改訂版が完成できなかったため、引き続き取り組んでいく。
④ 子育て支援	A	満3歳児クラス入園前の準備クラスを充実させていく。結果として、計画通り、進めることができた。
	B	さゆりエンジェル A コース(親子分離をしたクラス編成のコース)、B コース(親子教室、親子の触れ合いの場)、園庭開放のそれぞれの参加人数枠を増やし、たくさんの人に参加してもらえるように機会を増やす。結果として、さゆりエンジェル B コースへの参加者が少なく、次年度は少しでも参加者が増えるように保育内容を工夫し発信していく。
	A	教職員一人一人が保護者に寄り添いながら、子育てに悩む保護者が気軽に相談できる環境作りを工夫していく。結果として、一人一人に、丁寧な関わりを持つことができた。
	A	1,2歳児の親子を対象に、友達作りの場、育児に悩む保護者に寄り添う場として「こひつじクラブ」の開設を目指す。結果として、非常に好評を得て、一年を通して、たくさんの親子に参加いただけた。今後も継続してたくさんの方の参加を目指したい。
⑤ 開かれた園作り	B	ホームページを活用して、様々な取り組みの発信を行い、多くの人にカトリックさゆり幼稚園の取り組みを知ってもらえるように広報活動の拡充を図る。結果として、行事の取り組みについては発信できたが、今後、日々の教育活動についても発信をしていきたい。
	B	教育活動その他の幼稚園運営について、目標(Plan)-実行(Do)-評価(Check)-改善(Action)というPDCA サイクルに基づき継続的な改善に取り組んできた。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

総合評価	理由
B	<p>○今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、様々な制限のある中、多くの園行事を分散で行う形となったが、お泊り会、卒園式は一斉で行うことができた。一年を通して、どのような中でも子どもたちの安全を第一に考え園運営を行ってきた。これからも想定外のことが起きたとしても、子ども達のことを第一に考えて、子どもの育ちを支えていきたい。</p> <p>○子ども達の主体性を身につけるための保育、遊びを中心とした活動と設定保育とのバランスを見つめ直してきたが、今後も幼稚園教育要領の 5 領域や幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿(10 の姿)をしっかりと理解して、継続して取り組むことが必要と考える。</p> <p>○今年度は、多くの教職員が積極的に研修に参加する姿が見られたが、主任会議やリーダー会議などの会議の時間や日々の保育の準備に多くの時間を費やしたため、研修の共通理解の時間を持つことができなかった。今後は、研修の共通理解や園内研修も実施し、保育の質の向上に努めていきたい。また、教職員の日々の様々な業務が非常に多く、今年度末にICT化を進めることができたが、現状はあまり変化を感じないので、今後も引き続き、業務の効率化を目指していく。</p> <p>【年度末アンケートの結果】</p> <p>○カトリックさゆり幼稚園は心の教育を大切にして、「素直な心・思いやりの心・頑張る心」が育つよう心掛けているという設問に対して、「思う」「どちらかと言えば思う」と答えられた方が、3 学年共に 100%となり、非常に高い評価を得ることができた。しかし、実際の子どもの様子についての「思いやりの心」「祈りの心」「感謝の心」「我慢する心」「頑張る心」が育ってきているかの設問に対しては、「思う」「どちらかと言えば思う」と答えられた方が92.3%あり、昨年度の 95.3%より3%減少した。今後も引き続き、心の教育を大切にして、日々取り組んでいきたい。また、運動力について、運動力がついてきているかの設問に対して、「思う」「どちらかと言えば思う」が 95.6%の結果となり、今後、保育の中に様々な活動を取り入れ、運動力を身に付けていきたいと考えている。</p> <p>○「本園に入園させて満足している」という設問に対し、「思う」「どちらかと言えば思う」と答えられた方が、満 3 歳児クラスも含めても100%という結果となり、非常に高い評価を得ることができ、今後も継続していけるように努めていきたい。</p> <p>○今回のアンケート結果で頂いた意見の中の改善すべき点について、今後検討し、改善できるところは取り組んでいく。</p>

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み
① 教育課程・指導計画	<p>○全教職員が、様々な研修会に参加し、幼稚園教育要領の 5 領域や幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿(10 の姿)の理解を深め、生きる力の基礎を育てることを意識した指導計画を再編成していく。</p> <p>○リーダー・学年主任を中心に、子ども達が主体的に活動できる保育内容を計画し、その日々の活動を振り返り、また、学期ごとにも保育を振り返り、各クラスの成果と課題をまとめ、次の学期にねらいを持って取り組めるように指導計画の見直しを行い、子ども理解を深めていく。</p> <p>○本園の教育理念の基本でもある『心の教育』をさらに深め、また、子どもたち一人一人が愛すること、愛されることの喜びを実感し、命を大切にす心、個々の違いを認め合う心を大切にして、園生活を安心して過ごせる環境を作る。</p> <p>○支援を必要とする子どもが抱えている困難さについて学び、子ども達一人ひとりが自分らしく生きていけるように、個別の支援計画を策定し、子ども達に寄り添った丁寧な保育を行う。</p> <p>○十分に体を動かす運動遊びや英語講師による英語遊び、楽器遊びなどバランスよく取り入れながら、指導計画を策定する。</p>

② 教職員の資質の向上	<p>○全教職員が外部講師による園内研修や園外の様々な研修に参加し、専門性の向上をはかる。</p> <p>○支援を必要とする子どもたち一人ひとりが、どのようなことに困難を抱えているのか、また、どのような支援を必要としているのか、理解を深め、それに教職員が寄り添い共に生きる視点に立ち、特別支援教育についての理解を深めていく。</p> <p>○学年主任やリーダーを中心に縦・横の連携を大切にして、教職員が自由に悩み相談や意見交換などのできる環境作りを引き続き目指す。</p>
③ 健康・安全管理	<p>○子どもの命を守る教育(火災・地震・交通安全・流行性の病気)の充実を図り、安全意識を高めて園児自身が意識して行動できるように援助する。</p> <p>○園生活の中で、流行性の感染症(新型コロナウイルス感染症・インフルエンザなど)や安全面・衛生面に考慮した指導を教職員全体で共通理解しながら取り組む。</p> <p>○エビペン講習会の実施・アレルギー対応の知識向上と共通理解に努める。</p> <p>○危機管理マニュアルを見直し、全教職員が子どもの安全な園生活のために、あらゆる危機に対応できるように、危機管理マニュアルを改定し、教職員の共通理解を図る。</p>
④ 子育て支援	<p>○満3歳児クラス入園前の準備クラスを充実させ、9月からの満3歳児クラスの子どもたちがスムーズな園生活をスタートできるように計画する。</p> <p>○さゆりエンジェルAコース(親子分離をしたクラス編成のコース)、Bコース(親子教室、親子の触れ合いの場)、園庭開放のそれぞれの参加人数枠を増やし、たくさんの人に参加してもらえるように機会を増やし、英語遊びや読み聞かせ、WARAリズムなど保育内容の充実を図る。</p> <p>○子育て何でも相談室を設置し、子育てに悩む保護者が気軽に相談できる場を作り、一人一人の保護者に寄り添える体制作りを目指す。</p> <p>○1,2歳児の親子を対象に、友達作りの場、育児に悩む保護者に寄り添う場として「こひつじクラブ」を充実させていく。</p>
⑤ 組織の運営	<p>○ホームページに加えて、インスタグラムも活用して、様々な取り組みの発信を行い、多くの人にカトリックさゆり幼稚園の取り組みを知ってもらい、さゆり幼稚園を身近に感じてもらえるように広報活動の拡充を図る。</p> <p>○教育活動その他の幼稚園運営について、目標(Plan)-実行(Do)-評価(Check)-改善(Action)というPDCAサイクルに基づき継続的な改善に取り組む。</p> <p>○園のICT化に伴い、行事案の共有化をして、保育後の業務の見直し、教職員の労働時間を各々が守る意識を持ち、有効な時間の使い方を身に付け、作業効率を上げる。</p> <p>○教職員の勤怠管理、有給休暇取得などが定着してきているが、育児や介護などの必要な教職員も働けるように様々な働き方ができる職場作りを目指す。</p> <p>○各分掌を明確化し、皆がリーダーシップを発揮できるような体制作りを目指す。</p> <p>○さゆり幼稚園がまもなく60周年を迎えるに当たり、全教職員が共通の目的に向かって歩めるように、さゆり幼稚園のビジョンの可視化を図り、一人ひとりがカトリックさゆり幼稚園の教職員としての役割に気づき、資質向上に努めていく。</p>

6. 学校関係者の評価

特に指摘すべき事項はなく、妥当であると認められる。

7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。